

トヨタ車体のDXに向けた取り組み

2026年9月 公開

◆はじめに

当社はDXを、ビジョン2035とマテリアリティの実現を支える経営基盤と位置づけています。TPS(*1)の現場力にデータ・AI・デジタル技術を掛け合わせ、働き方の変革、モノづくり競争力の強化、新たな価値創出に取り組めます。

(*1)TPS :トヨタ生産方式 Toyota Production System

◆本資料について

本資料は、当社のDX方針・重点施策・進捗・取り組み事例のご紹介を通じて、当社が目指す変革の姿と価値創出の方向性を、ステークホルダーの皆さまにお伝えするための資料です。皆さまとの対話を通じて、施策の改善と新たな価値創出につなげてまいります。

◆本資料の内容

1. DX推進宣言
2. トヨタ車体 DXビジョン
3. 変革に向けたデジタル施策
4. 主な進捗・成果指標
5. 私たち一人ひとりが持つマインド

1. DX推進宣言



1. DX推進宣言

自動車産業は今、100年に一度とも言われる大きな変革期の真っ只中にあります。生成AIをはじめとしたAI技術の進化、世界情勢や社会構造の変化、そしてお客様の価値観の多様化により、従来の延長線上ではない取り組みがますます求められています。

こうした環境変化を踏まえ、当社は商用車の「商品とものづくり」という原点に立ち返り、その強みを進化させるべく新たな価値創出に挑戦しています。「もっといいクルマづくり」を追求しながら、当社の「ビジョン2035」実現に向けて社会課題の解決と持続的な企業価値向上を目指しています。

当社はDX推進をマテリアリティの一つに位置付けています。その根幹となる考え方が「KAKEZAN」です。TPSとデジタル・AI、ベテランと若手、そして社内外の多様な人材や知見を掛け合わせることで、新たな価値の創出と競争力の強化を図っています。

この変革期を成長の機会と捉え、デジタルによる開発力の強化やAIの戦略的活用を推進し、またリスクリングを通じてDX人材の育成・拡充を図り、デジタル技術の事業活用を一層加速していきます。失敗を恐れず挑戦し続けることでお客様の期待を超える価値を提供し続けてまいります。

代表取締役・社長 松尾 勝博



トヨタ車体「ビジョン2035」

ビジョン2035  (HACOB) を通じて世界に貢献

「Happiness」…すべてのステークホルダーの幸せをつくる

「Connect」…人々の暮らしをつなぐ価値を提供

「Breakthrough」…未来に向かってみんながかわる

- ・KAKEZANは、トヨタ車体らしくDXを進める基本思想です
- ・TPSの改善力とデジタル・AI、多様な人材・知見を掛け合わせ、現場改善を企業価値向上につなげます

KAKEZAN

1. TPS × デジタル・AI

TPSの現場力にデジタル・AIを掛け合わせ、
改善のスピードと質を高めます

2. ベテラン × 若手

熟練の技能とデジタルネイティブの感性を掛け合わせ、
現場で使いやすい仕組みを生み出します

3. ビジネス人材 × デジタル人材

クルマ屋の知識と経験にデジタル屋の技術と発想を掛け合わせ、
従来にない価値創出につなげます

2. トヨタ車体 DXビジョン



2. トヨタ車体 DXビジョン

8

◆トヨタ車体 DXビジョン

- ・ビジョン2035「ハコブ(HaCoB)を通じて世界に貢献」の実現に向け、目指す3つの変革と4つのデジタル施策を定義しました
- ・私たち一人ひとりが持つべきマインドを大切にしながら、当社の従業員と世界中のお客様、そして未来をつなぐため、“みんなでつなげるデジタル”をスローガンに、経営陣のリーダーシップと従業員のカイゼン力の両輪でDXに取り組み続けます

トヨタ車体 全社DXスローガン みんなでつなげるデジタル

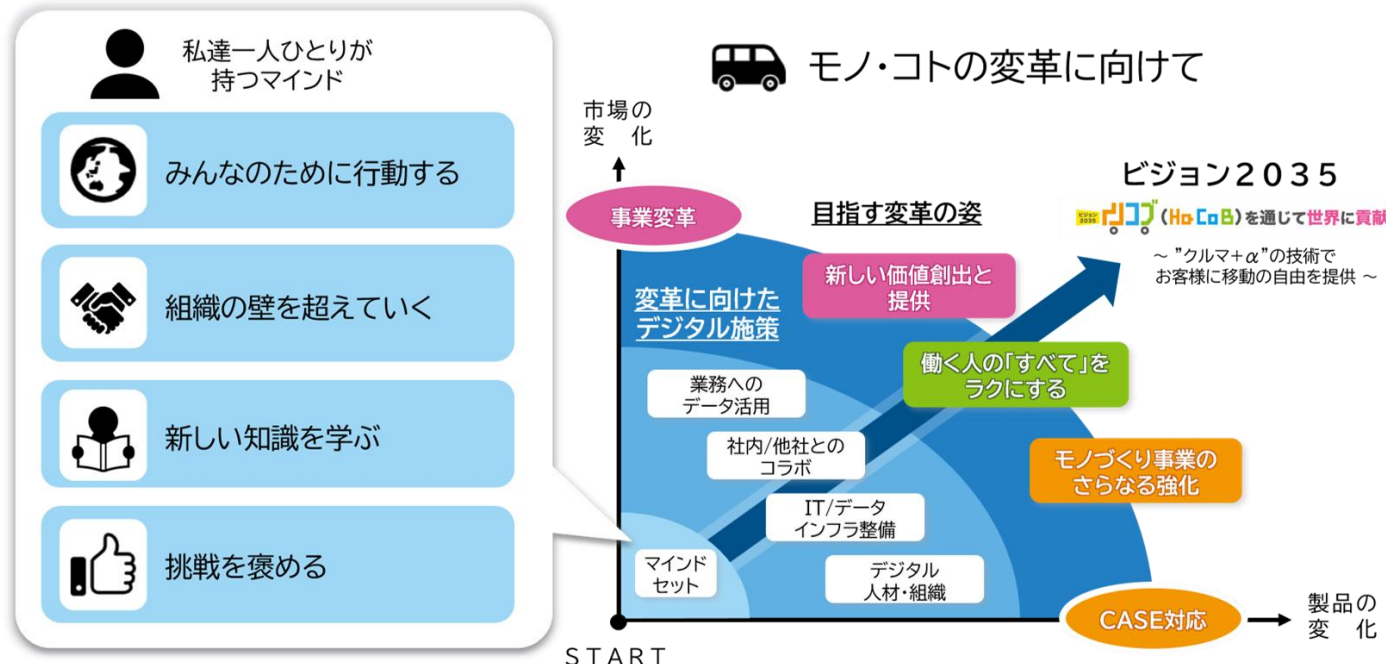
トヨタ車体が目指す 3つの変革

働く人の「すべて」をラクにする

モノづくり事業のさらなる強化

新しい価値創出と提供

3つの変革を、それぞれの領域に合わせて推進



2. トヨタ車体 DXビジョン

◆トヨタ車体が目指す3つの変革

- ・私たちは「DXビジョン」で定義した3つの変革、「モノづくり事業のさらなる強化」「働く人の「すべて」をラクにする」「新しい価値創出と提供」に取り組みます
- ・デジタル人材の育成・確保を進めながら、データとデジタル技術を活用し、段階的かつ持続的な変革を進めることで、お客様への新たな価値提供を目指します

働く人の「すべて」をラクにする

アナログで行っていた業務をデジタルに置き換え、データの見える化や業務の自動化を通じて効率化・生産性向上につなげます

デジタル人材育成・確保

デジタル・データ活用風土

デジタルツールの定着

モノづくり事業のさらなる強化

AI/IoTなどのデジタル技術の活用、社内のソフトウェア開発体制を整備し、デジタルを前提とした業務プロセスや組織へ再構築し、商品力・競争力の向上につなげます

社内データ連携

ソリューション内製開発

データドリブン経営

新しい価値創出と提供

社内外の知見・データ・ソフトウェア開発力を活用し、お客様への新たな体験価値やサービスの創出に取り組むことで、事業変革や地域・社会への貢献につなげます

データを活用した
コトビジネス

エコシステムの構築

お客様の体験の向上

2. トヨタ車体 DXビジョン

10

◆3つの変革を実現する4つのデジタル施策

- ・3つの変革を実現するため、KAKEZANを基本思想に、「デジタル人材・組織」「IT/データインフラ整備」「業務へのデータ活用」「社内／他社とのコラボ」の4施策を一体的に推進します
- ・4施策を連動させ、人・データ・知見が循環する仕組みを構築し、継続的な改善と新たな価値創出につなげます

DXビジョンを支える変革の土台



4つのデジタル施策と狙い

デジタル施策	狙い	期待する成果
デジタル人材・組織	従業員のデジタルスキルと実践力を高め、変革を自ら推進できる人材・組織を育成	デジタル人材の育成と職場での実践拡大
IT/データインフラ整備	社内外に散在するデータを安全かつ一気通貫でつなぎ、必要な情報を迅速に活用できる環境を整備	必要なデータを迅速かつ安全に活用できる環境の実現
業務へのデータ活用	現場・業務・経営の情報が見える化・分析し、事実に基づく改善と意思決定に活用	データ・AIを活用した業務改善と意思決定の高度化
社内/他社とのコラボ	社内外の知見・技術・データを掛け合わせ、新たな価値創出と事業変革を促進	知見共有と共創活動の拡大

※施策の進捗・成果は年2回のデジタル戦略委員会で確認し、戦略・施策の見直しに反映

3. 変革に向けたデジタル施策

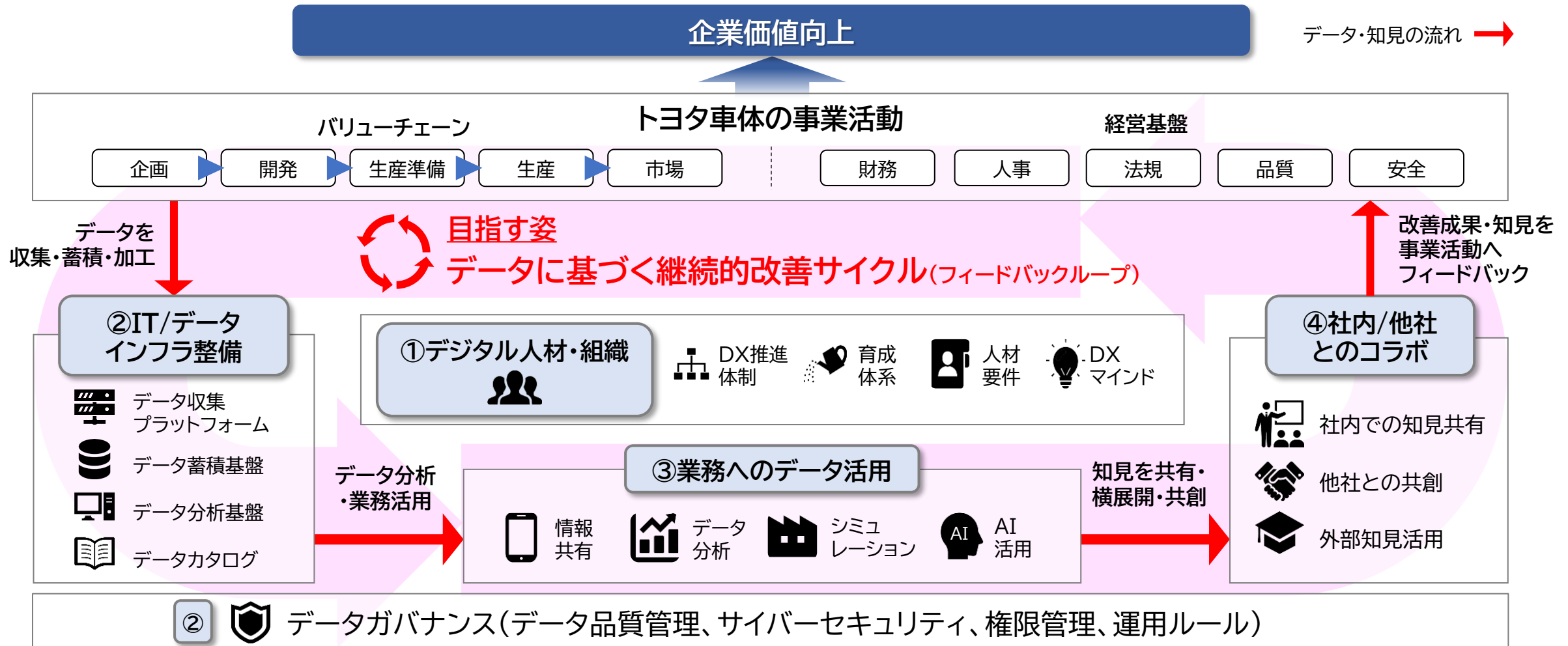


3. 変革に向けたデジタル施策

12

◆4つのデジタル施策による継続的改善サイクル

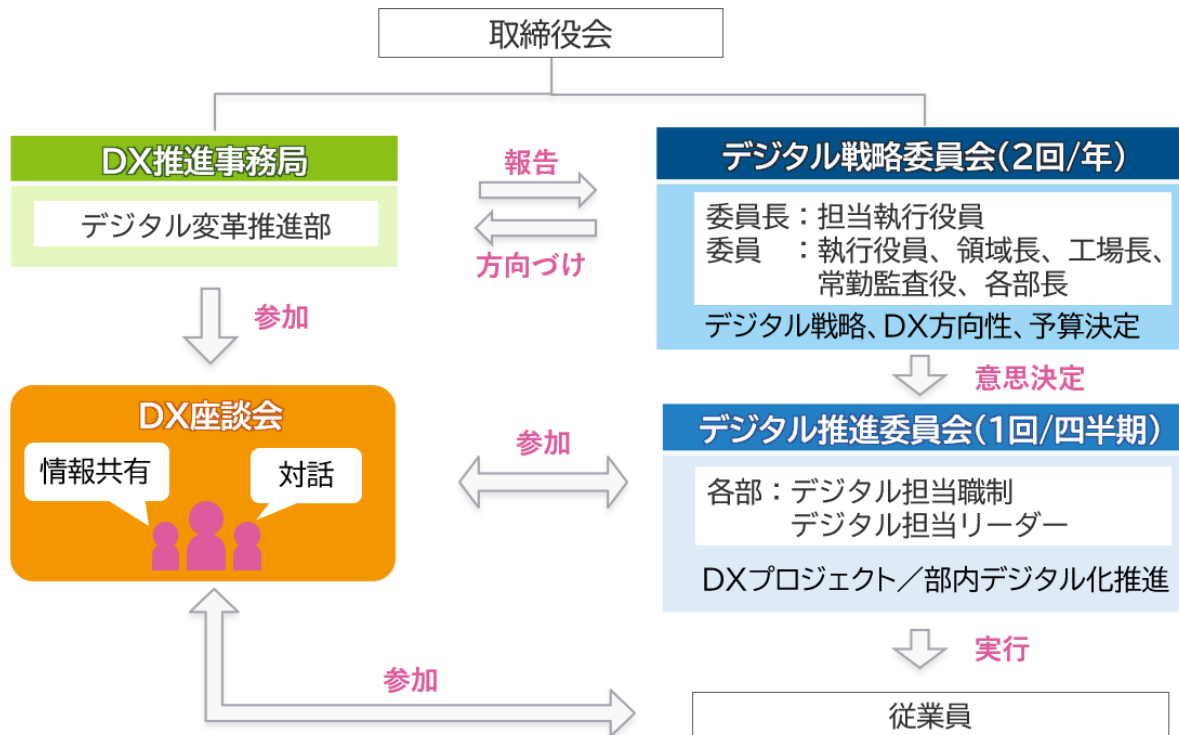
- ・育成したデジタル人材が各施策をつなぎ、事業活動から得られるデータや知見を改善に生かします
- ・改善成果を事業活動へ還元し、変革が次の変革を生み出す循環によって事業活動を強化し、企業価値向上を目指します



◆DX推進体制

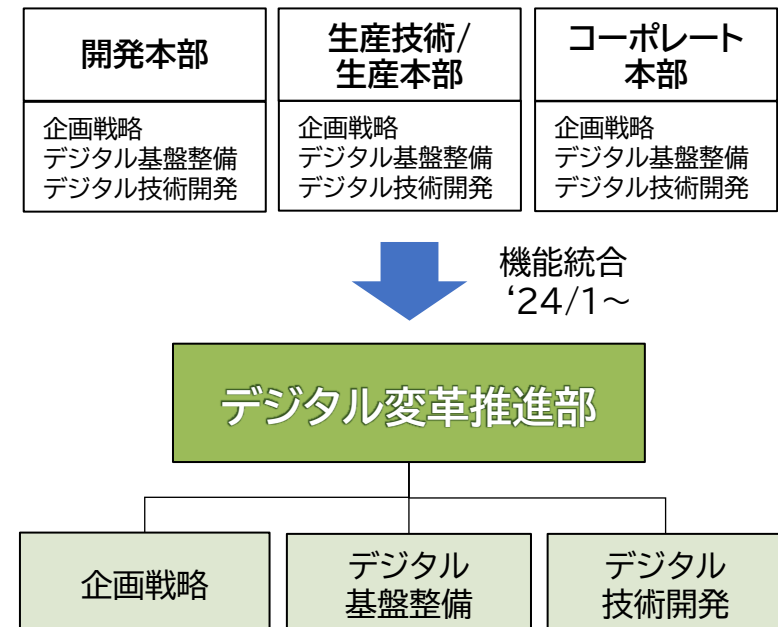
- ・取締役会の監督のもと、経営陣による「デジタル戦略委員会」においてDX戦略に関する意思決定を行います
- ・各部のデジタル担当からなる「デジタル推進委員会」で情報共有を行うことで、社内のDXプロジェクトを推進します
- ・従業員同士の対話の場である「DX座談会」を開催し、共有した現場の知恵や従業員の気づきを社内のデジタル施策に反映します

DX推進体制



デジタル変革推進部の役割

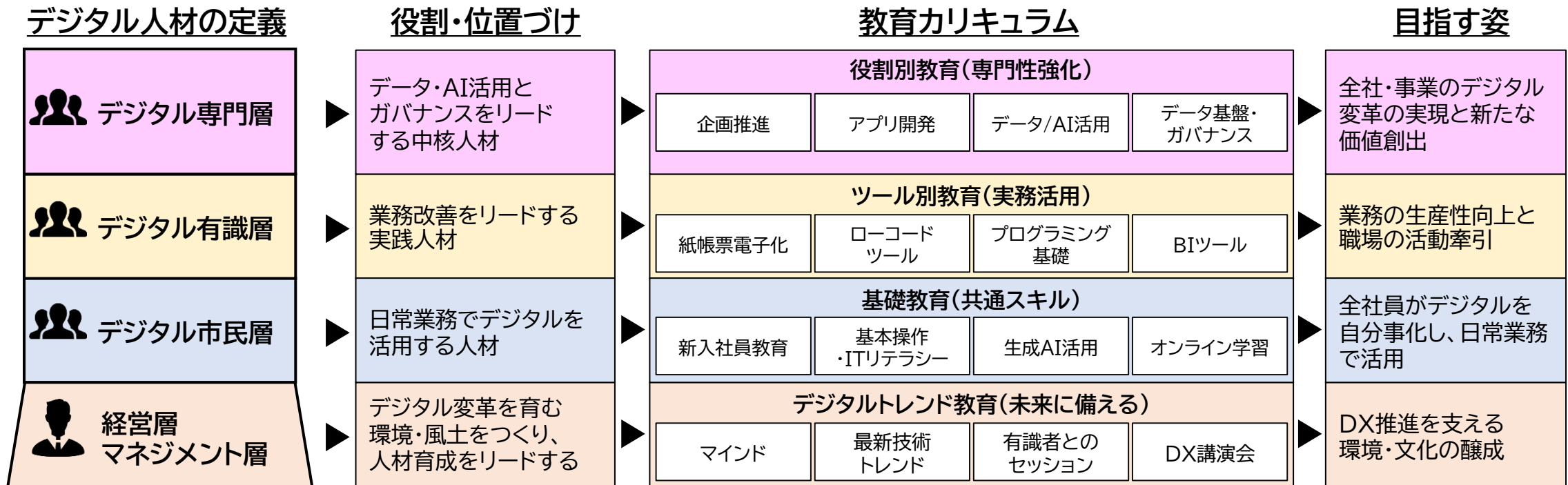
‘24年1月、各本部のIT機能・企画部署を統合したデジタル変革推進部を発足させ、意思決定の迅速化を図っています



3-①.デジタル人材・組織

◆デジタル人材育成体系

- ・経営層・マネジメント層から全従業員まで、役割に応じた育成体系を整備しています
- ・基礎教育、実務活用、専門教育を組み合わせ、業務改善と価値創出を担う人材を育成します



注) デジタル専門層の専門領域は、IPA「デジタルスキル標準ver.2.0」を元に、当社のDX推進に必要な企画推進、アプリ開発、データ・AI活用、データ基盤・ガバナンスの4領域で整理しています。

3-①.デジタル人材・組織

◆デジタル人材の要件

- ・役割に応じて求めるスキルや実践内容を定義し、デジタルステージとして可視化しています
- ・教育履歴や改善・活用実績を社内ダッシュボードで管理し、個人・組織別の育成状況を把握しながら2030年目標に向けて計画的に育成を進めています

デジタル ステージ	職場での役割・活躍	認定要件	可視化する情報	進捗指標		
				‘25年度 実績	‘27年度 目標	‘30年度 目標
デジタル 専門層	データ・AI活用とガバナンスを リードする中核人材 ・データ/AIを活用した組織課題の解決 ・安全で適切なデータ活用の推進 ・職場のデータ活用・ガバナンスをリード	・専門層教育の修了 ・専門層教育の指導 ・実務テーマ活用	・実務テーマ ・教育受講履歴 ・資格、デジタルバッジ	348人	1,000人	2,000人 以上
デジタル 有識層	業務改善をリードする実践人材 ・業務課題をデジタルで改善 ・改善成果を職場内外へ共有 ・周囲のデジタル活用を支援	・デジタル改善事例 の提案 ・事例の全社共有	・デジタル改善事例 ・教育受講履歴 ・資格、デジタルバッジ	1,002人	3,000人	5,000人 以上
デジタル 市民層	日常業務でデジタルを活用する人材 ・デジタルを理解し、日常業務で活用 ・生成AIや各種ツールを安全に活用	・デジタル教育の 受講	・教育受講履歴 ・資格、デジタルバッジ	5,003人	8,000人	社員全員

◆経営層・マネジメント層の変革風土づくり

- ・DX講演会やデジタルトレンド教育を通じて、最新技術や活用事例に触れる機会を設けています
- ・経営層・マネジメント層自らが学び、DXに主体的に関与することで、従業員の挑戦を後押しする風土づくりにつなげています

DX講演会の様子



最新技術(生成AI)・デジタルトレンド教育



- ・生成AIをはじめとする最新技術や先進企業の活用事例を学び、デジタル技術への理解を深める機会を設けています
- ・得られた知見を事業戦略やDX推進の方向性検討に活かしています

外部有識者とのセッション、トークイベント

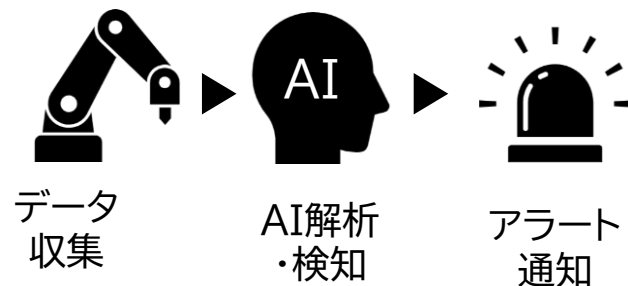


- ・デジタル戦略委員会や社内イベントに合わせ、外部有識者の講演やセッションの機会を設け、多様な知見や視点を取り入れています
- ・得られた気づきを事業変革や組織づくりに活かしています

◆モノづくりの高度化のため環境整備

- ・製造現場の設備・映像・位置情報を活用し、AI分析やデジタルツインを通じた、現場改善と意思決定の高度化に向けて取り組んでいます
- ・現場・生産技術・開発を共通データでつなぎ、改善結果を次の分析・判断に活かすフィードバックループの高度化を進めています

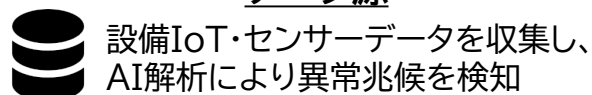
設備データの収集と活用



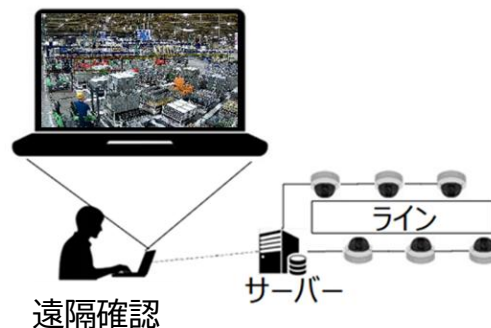
主な活用シーン



データ源



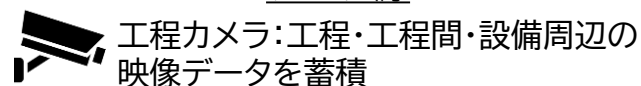
映像データの収集と活用



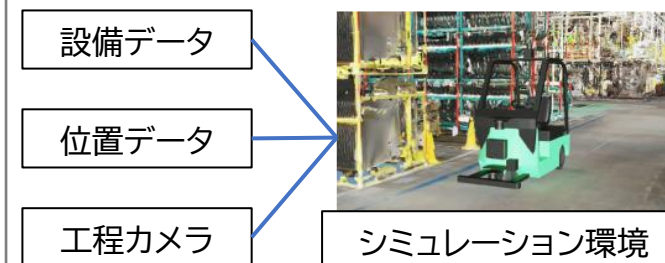
主な活用シーン



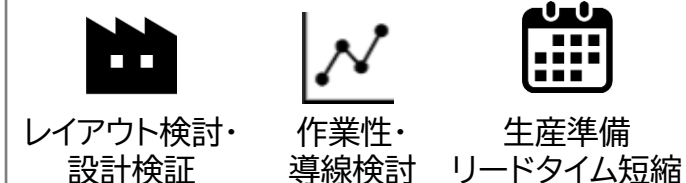
データ源



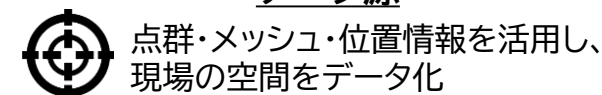
空間データの収集と活用 (デジタルツイン構築)



主な活用シーン



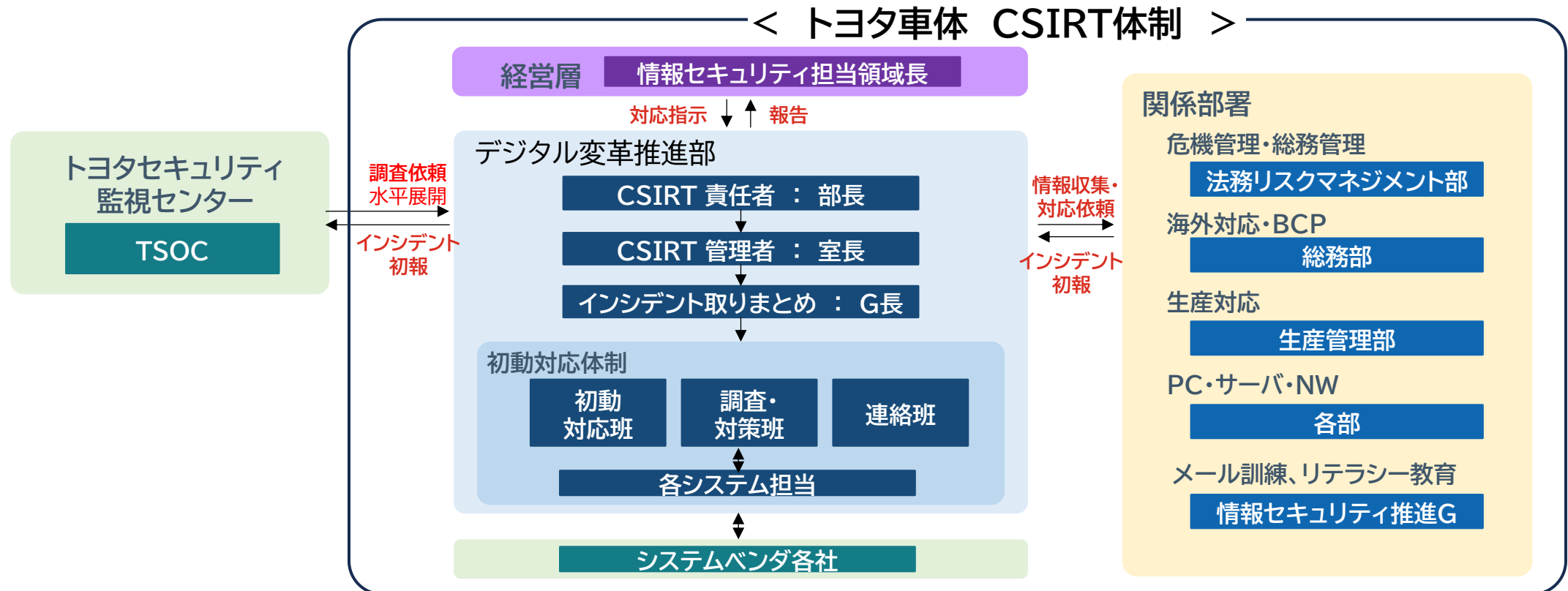
データ源



◆サイバーセキュリティ

- ・情報資産を保護し、安全・安心な事業運営を支えるため、CSIRT(※)を整備し、インシデント情報の共有と未然防止に取り組んでいます
- ・「オールトヨタセキュリティガイドライン(ATSG)」に準拠した定期自己評価を実施し、情報セキュリティ対策の実施状況を点検しています
- ・評価結果に基づき、課題および対応状況を確認し、継続的な改善につなげています
- ・デジタル変革推進部情報セキュリティ推進グループを中心に、教育・啓発、標的型攻撃メール訓練、点検等を通じて、情報セキュリティの維持・向上を図っています

※CSIRT:Computer Security Incident Response Teamの略



◆生産現場のデータ活用と意思決定の高度化

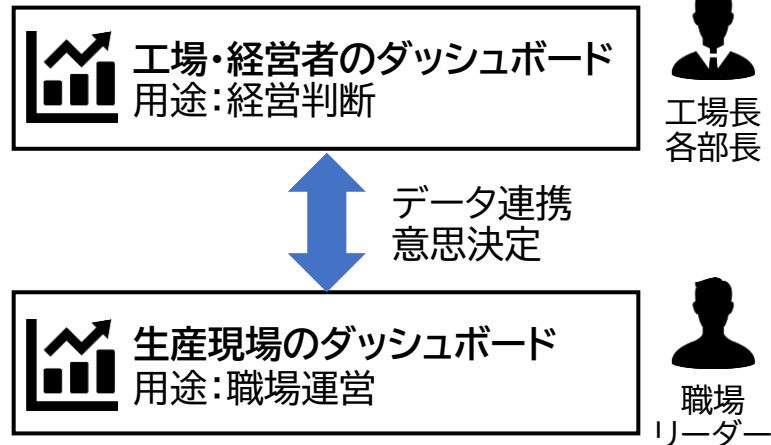
- ・生産現場から経営まで、共通のデータに基づく意思決定を支える環境を整備しています
- ・ダッシュボードと伴走支援を通じて、データ活用の定着と継続的改善を進めています

生産現場のデジタルダッシュボード



- ・生産現場データを可視化するダッシュボードを全製造職場に展開
- ・データに基づく迅速な判断と改善活動を支援

経営者のダッシュボードとの連携



- ・現場データを収集・統合し、経営判断に活用
- ・現場と経営をつなぐ一気通貫の仕組みを構築

業務DX推進に向けた伴走支援



- ・伴走支援チームが各職場に伴走し、情報の見える化、業務のデジタル化、データ活用による課題解決を支援

◆生成AIの業務活用

- ・当社では、生成AIを業務効率化にとどまらず、従業員一人ひとりがDXを自分ごと化するための起点となるツールと位置付けています
- ・従業員が業務で扱うデータと親和性が高い、Microsoft 365 Copilot(以下、Copilot)を全社共通のツールとして展開しています
- ・業務効率化を通じて創出した余力を、リスクリングや新たな価値創出につなげます

価値創出に向けた取り組み

STEP1:日常的な活用の定着

- ・ガイドライン整備
- ・壁打ち・相談
- ・会議運営の効率化
- ・文書作成の効率化

2025年度実績

Copilot 利用者数	月あたり 利用率	週あたり 利用率
6,000人	95.5%	85.3%

STEP2:業務効率化・高度化

- ・情報検索、ナレッジ活用
- ・FAQ・タスク支援
- ・AIエージェント活用
- ・意思決定の迅速化

2025年度実績

Copilotによる 業務効率化事例数	余力創出効果
30事例	20,750 時間/月

目指す姿

STEP3:学びと実践を通じた 価値創出



人材育成
リスクリング



技能伝承への
活用



人とAIの協働



新たな価値
創出への挑戦

※利用率 = 対象期間内に生成AIを1回以上利用した従業員数 ÷ 利用対象者数 × 100 ※余力創出効果 = 利用者の能動的利用回数 × 原単位

◆STEP1:日常的な生成AI活用を支える取り組み

- ・ガイドライン整備と事例共有により、安全な生成AI活用を支えています
- ・社内のCopilotアンバサダーの育成と活用推進、利用状況の可視化を通じて、職場主体の活用と継続的な改善を促進します

定着と活用拡大を支える取り組み

ルール整備と適正利用推進



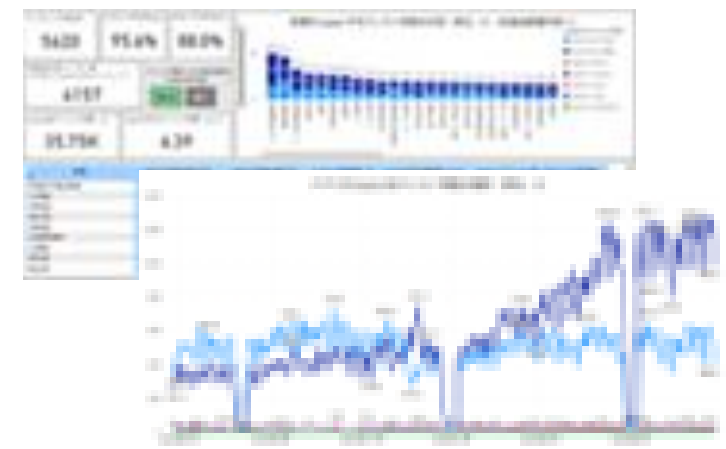
- ・法務リスクマネジメント部と共同で生成AI利用ガイドラインを策定し全社展開
- ・適正利用と情報セキュリティを推進

Copilotアンバサダーの育成と活用推進



- ・職場主体で活用事例の創出と横展開を推進するアンバサダー活動を展開
- ・2025年度は115名が参加し、30件の業務効率化事例を全社に公開

利用状況の見える化と改善

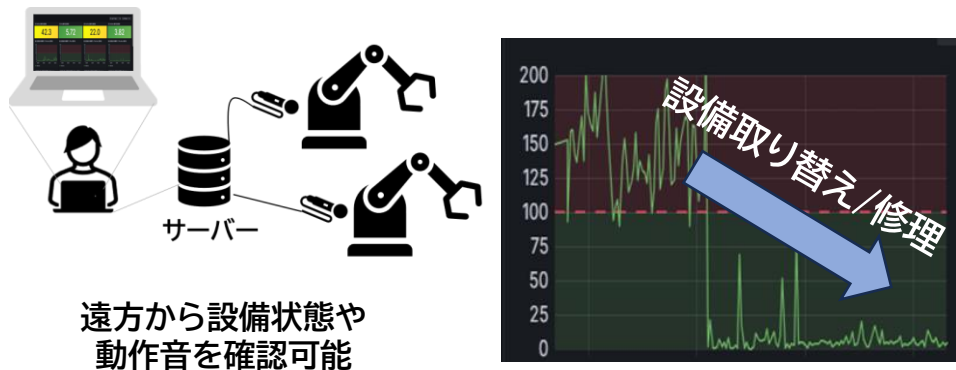


- ・組織別のCopilot利用状況を可視化し全社公開
- ・活用促進と継続的な改善に活用

◆STEP2:AIを活用した業務改善事例

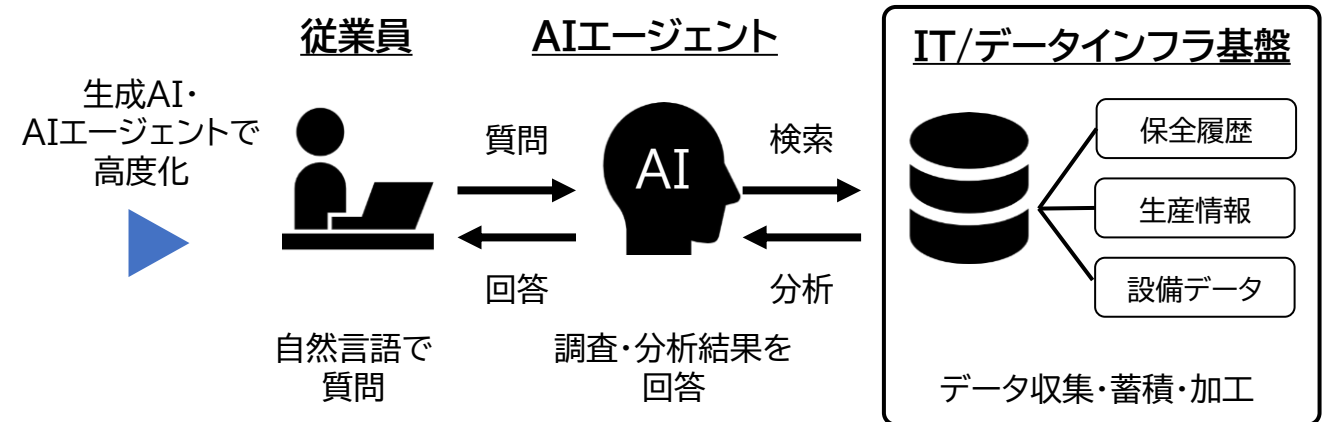
- ・業務効率化・高度化の取り組みの一例として、設備データとAIを活用し、設備状態の把握や異常兆候の検知など、保全業務の高度化を進めています
- ・さらに、生成AI・AIエージェントを組み合わせ、情報収集・分析や判断を支援することで、さらなる効率化・高度化を目指します

設備データとAIによる保全業務の高度化



- ・設備の動作音をAIで分析し、遠隔診断や故障の未然防止に活用しています
- ・保全業務を効率化し、現場の生産性向上につなげています

データ基盤との連携による情報活用・判断支援



- ・データ基盤に蓄積した情報を生成AI・AIエージェントで検索・分析し、迅速な情報収集と業務判断を支援する環境の整備を進めています

◆STEP3:創出した余力を、学びと挑戦へ再投資

- ・業務改善や生成AI活用で生まれた余力を、リスキリングや新たな挑戦に活用します
- ・学びを業務で実践し、さらなる改善と価値創出につなげる循環を目指します

創出した余力を、次の学びと挑戦へ

顧客価値を起点としたデザイン思考研修



©WeWork JRセントラルタワーズ名古屋

- ・顧客視点で課題を捉え、新たな価値を構想する力を育成
- ・研修で得た学びを、業務改善や新たな価値創出に活用

アプリ開発人材の育成



- ・トヨタグループのプログラミングカレッジに参画
- ・アジャイル開発と実践型開発を通じ、社内開発を担う人材を育成
- ・修了生が社内開発や現場改善を推進

データ/AI活用人材の育成



- ・2025年度から社内人材育成制度、「データサイエンスラボ」を開始し、24テーマを推進
- ・実務テーマを通じ、データから課題を捉え、解決する力を育成
- ・専門家の伴走支援により、職場での課題解決力を強化

◆知見をつなぎ、次の改善を生み出す社内コラボ

- ・社内ポータル、全社DXイベント、オンラインコミュニティを通じ、改善事例やノウハウを共有します
- ・部門を越えた学び合いと対話から、新たな気づきと挑戦につなげます

社内ポータルサイトの整備



- ・改善事例やデジタル活用のノウハウを集約
- ・共有教育情報や各種ダッシュボードを掲載

全社DXイベントの開催



- ・部門を越えてDX事例を共有し、対話する場、DX情報共有会を開催
- ・2026年3月開催、延べ2,448名が本イベントに参加

オンラインコミュニティ



- ・有志従業員が部門を越えて学び合う場を運営
- ・アプリ開発や生成AI活用の知見・事例を共有

◆共創による価値創出

3つの変革の実現に向け、トヨタグループ各社や外部パートナーとの共創を推進しています

- 人材・知見の交流 : デジタル人材の交流や共同開発を通じて、知見を共有
- データ・IT基盤の連携 : トヨタ車体グループ内のデータやIT基盤をつなぎ、活用を促進
- 外部企業との共創 : 多様な技術や発想を取り入れ、業務改善や新たな価値創出につなげる

トヨタ車体グループ内のデータ・IT基盤連携活動



- ・トヨタ車体グループ各社とデータ・IT基盤の連携を強化
- ・サプライチェーン全体での情報活用高度化とセキュリティガバナンス強化を推進

外部企業との共創



- ・Toyota Woven Cityへ、Inventorsとして参画
- ・データ・技術連携を加速し、新たな価値創出や事業変革の実現に挑戦

参考: 当社プレスリリース
モビリティのテストコース”Toyota Woven City”へInventorsとして参画
https://www.toyota-body.co.jp/news/news_release/woven

4. 主な進捗・成果指標



4. 主な進捗・成果指標

- ・当社は、DX戦略の進捗と成果を把握するため、4つのデジタル施策ごとに指標を設定しています
- ・各指標の進捗をデジタル戦略委員会で年2回共有し、課題と対応策を確認します
- ・確認した内容を踏まえ、次年度の施策やDX戦略の見直しを検討します

デジタル施策	期待する成果	主な進捗・成果指標	現状値 (2025年度実績)	指標の考え方
デジタル 人材・組織	デジタル人材の育成と 職場での実践拡大	①デジタル人材の育成人数	P15参照	当社のDXを担う人材の育成が 計画どおり進んでいるか
IT/データ インフラ整備	必要なデータを迅速かつ 安全に活用できる環境の 実現	①IT/データインフラ基盤の整備進捗 (データ蓄積基盤、データ分析基盤) ②IT/データインフラ基盤の活用部署数 (2026年度より測定開始)	①データ蓄積基盤 構築完了	必要なデータを安全かつ迅速に利用できる 基盤が整備され、活用する部署が広がって いるか
業務への データ活用	データ・AIを活用した 業務改善と意思決定の 高度化	①デジタル改善事例提案件数 ②データ・AI活用テーマ件数 (データサイエンスラボ登録テーマ)	①計238件提案 ②計24件	データ・AIの活用が各職場に広がり、 業務改善や余力創出につながっているか
社内/他社との コラボ	知見共有と共創活動の 拡大	①社内外との共創プロジェクトの 進捗状況	①社内外との共創プロ ジェクトを推進中 P24・P25参照	社内外の知見・技術・データを活用した 共創が、具体的な検証や事業・業務への 実装につながっているか

5. 私たち一人ひとりが持つマインド



5. 私たち一人ひとりが持つマインド

29

- ・私たちはお客様により良い価値をお届けするため、全従業員で共有するDXマインドを定義しています
- ・DX推進の基本思想である「KAKEZAN」のもと、一人ひとりが学び、挑戦し、つながることで変革を生み出します
- ・下記の4つのマインドをもとに、働き方変革やモノづくり競争力の強化、新たな価値創出に取り組みます



みんなのために行動する

お客様や仲間、社会の視点で考え、より良い価値の提供を目指します。
自分だけでなく、関わるすべての人のために行動します。



組織の壁を超えていく

部門や会社、世代を越え、多様な知見や技術を掛け合わせます。
対話と共創を通じて、新たな価値創出に挑戦します。



新しい知識を学ぶ

デジタル技術や新たな知識を学び続けます。
学びを現場改善や価値創出につなげます。



挑戦を褒める

失敗を恐れず挑戦する人を尊重し、互いに称え合います。
挑戦から得た学びを共有し、次の成長につなげます。



- ・これらのマインドを全従業員で実践し、4つのデジタル施策と3つの変革を通じて、ビジョン2035の実現と持続的な企業価値向上につなげます